

はつかいち未来ビジョン 2035（廿日市市総合計画 基本構想）（案）に関する意見募集の結果について

1 募集期間

令和7年8月13日（水）から9月11日（木）まで

2 公表場所

廿日市市公式ホームページ

廿日市市役所（4階経営政策課、2階行政資料室）

各支所情報公開コーナー

3 寄せられた意見の概要と市の考え方（受付順）

13件（提出者3名）

番号	項目	意見の概要	市の考え方
1	－	「産業が活気づく」と断定する根拠となるデータ・分析は何か。 現状は、宮島観光に依存していて、新しい産業の芽はない。	「市内生産額」や「企業」が増加していることは、産業が活気づいていると判断する根拠の一つと考えています。これらの指標は、本市が定期的実施している「産業構造調査」において把握しています。 本市が2024（令和6）年度に実施した「産業構造調査」では、「木材・木製品」、「食料品」、「道路輸送」、「印刷・製版・製本」の4分野が、全国平均と比べて高い所得の構成比を示しており、地域内で所得を生み出すとともに、市外からの所得流入にも寄与する基幹産業として位置づけています。 また、宿泊業を中心とする観光関連産業も本市の強みの一つであり、地域や関係団体、事業者等と連携しながら、持続可能な形での発展に取り組んでいます。 今後も、産業構造の分析や動向把握を継続するとともに、市内産業経済団体等と連携しながら、市内事業者の経営基盤強化や新たな産業の創出などに取り組み、地域経済の活性化を図ってまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
2	－	「市民サービスと行政経営の向上」を掲げているが、AI 活用やスマホによる申請手続（住民票の写しの請求等）が進んでいる他都市と比較して、廿日市市の現状はどの段階にあるのか。	本市では、DX 推進計画において「スマート市役所の実現」を掲げており、24 時間 365 日、いつでも、どこでも、簡単、便利に行政サービスが利用できる市役所を目指しています。 主な取組として、市 LINE 公式アカウント上で、各種申請・予約・通報ができるように取り組んでおり、現在 60 以上の手続を公開しています。 例えば、住民票の写しの請求手続では本人確認や手数料の決済も含めてスマホで手続が完結します。 他都市との単純比較は難しいですが、比較的進んでいる方だと認識しています。 また、生成 AI を活用したチャットボットの設置や動画生成 AI を活用した動画公開にも取り組んでおり、AI の活用も進めています。
3	－	財政面で「公共施設の維持管理費が増加傾向」と認めながら、具体的な削減策や将来見通しが示されていないのはなぜか。	公共施設の老朽化や更新費用の集中により、今後、維持管理や更新に関する経費の増加が見込まれることを課題として認識しています。 こうしたことから、将来の財政負担を軽減し、持続可能な行政サービスを提供するため、2052（令和 34）年度を目標年次とする「廿日市市公共施設マネジメント基本方針」を策定し、公共施設の将来更新費用を推計したうえで、公共施設全体の延べ床面積の縮減、施設の長寿命化や予防保全の推進、民間活力の活用などの取組を進めているところです。 今後も、こうした取組を着実に進めながら、財政状況や社会状況の変化も踏まえ、公共施設の適正な管理運営に努めてまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
4	ー	宮島では人口減少等に伴い空き家の増加が進行している。移住相談はあるものの、情報提供できる住宅は不足している。 そのため、宮島の実情に精通した専門部署等との連携を図り、移住のために住宅が活用される手立てが必要である。	建設部住宅政策課を窓口として、空き家バンク制度※¹及び空き家活用支援補助金※²を運用し、宮島地域の空き家活用の促進を図っています。しかし、宮島地域ではこれらの利用実績がほとんど無いため、個人間や民間の不動産会社を介して空き家が取引されていると考えられます。 私法上の財産の取引に行政が関与できる範囲には限界がありますが、空き家に関することなどで宮島の地域事情を考慮する必要がある場合は、関連部署と連携し対応していきます。 また、空き家活用支援補助金は居住用の空き家を対象としているため、空き家バンク制度や空き家活用支援補助金をより広く周知し、利用を促進することで、空き家が移住・定住のために活用されるようにつなげていきたいと考えています。 ※1 主に一般の不動産業者が介入しない中山間地域等の空き家を、市を通じて紹介し、市に移住（定住）したい人に市内の空き家の情報を提供するシステム ※2 主に空き家バンク制度に登録された空き家を対象とし、その家財整理や改修等に関する経費を補助するもの
5	ー	宮島訪問税を活用して海上タクシーを整備してほしい。現状、夜中に救急車で島外病院へ運ばれた場合、付き添った人は島内に帰れない。また、夜中に容体が急変しても病院に駆けつけられず、移住するにも不安要素である。	本市では、市民に一定の移動ニーズがある場合、社会インフラとして生活交通を確保しています。 夜間の救急搬送に伴う付き添い者の帰宅や、急変時の対応に不安を抱かれている点について承知しました。 今後も同様のご意見を多くいただくようであれば、関係機関と協議を行い、宮島訪問税の活用を含め、導入の可能性について検討してまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
6	—	宮島でお店の前に観光客が並んでいて、島民の車や自転車などの通行の邪魔になっている。観光客が道路に並ばないように指導をお願いしたい。また、交通誘導員を配置して、観光客の誘導をお願いしたい。	多くの観光客が訪れる宮島では、時期や時間帯によって同じ場所・エリアに人が集中し、混雑や交通渋滞が発生するほか、観光客のマナー問題などにより地域住民へ影響が及ぶ事象が生じていることを認識しています。 この対応として、観光の現況やその影響等について関係部署や地域の関係団体等と情報の共有等を行うとともに、観光客の分散化や混雑の緩和を図るため、宮島観光デジタルマップによる混雑状況の発信や、宮島観光のルールや住民生活への配慮を求める看板・ポスターの制作、観光マナー（心得）の啓発などに取り組んでいます。 店舗前の行列に関する交通誘導員の配置については、特定の店舗への支援となるため、市として対応することは難しいと考えており、引き続き観光客へのマナー啓発を行うとともに、各店舗に対して観光客の誘導協力を依頼してまいります。 なお、今後の状況に応じて、混雑が集中する交差点などには交通誘導員の配置を検討してまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
7	－	宮島で夜の船の便が少ない。島内には中学校までしかなく、高校からは船に乗って島外の学校に通うため、船の定期券が必要になるが、朝は宮島松大汽船、夜は JR 西日本宮島フェリーが便利で、両方乗船できる定期券にしてほしい。 また、JR 西日本宮島フェリーの朝の便（7 時台）と夜の便（せめて一時間に 2 便）を増便していただきたい。大人になっても、宮島に住もうと思えるように対応をお願いしたい。	【定期券に関して】 宮島航路は、宮島松大汽船株式会社及び J R 西日本宮島フェリー株式会社が独自に運航している路線であり、共通定期券の運用可否について本市が決定することはできません。 いただいたご意見については、各運航事業者と共有いたします。 【早朝夜間における増便について】 宮島航路の早朝・夜間便は、宮島地域の住民等の生活航路としての利便性を確保するため、市が運行経費の一部を負担して維持しています。 さらなる増便については、現在の利用状況を踏まえると、既存航路では困難な状況です。 今後も同様のご意見を多くいただくようであれば、関係機関と協議を行い、他の運航形態も含めて検討してまいります。
8	－	現在の宮島口栈橋の待合所は、改札内にあり利用しにくい。夜は便が少なくなり、冬は寒いし、夏は暑い。宮島島民の意見、特に高校生や大学生など若者に意見を聞いて整備してほしい。	宮島口栈橋の待合所は、2020（令和 2）年 2 月に宮島口旅客ターミナルの供用開始後、広島県の港湾施設として 2025（令和 7）年 1 月に大栈橋に設置され、同月から供用開始されました。 設置場所については複数の候補がありましたが、収容人数の確保など設置条件の関係から大栈橋上に決定しました。 なお、待合所は完成していますが、ご利用される方にとってより良い環境となるよう、関係機関と引き続き検討してまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
9	－	宮島の重要伝統的建造物群保存地区内の建物改修について、バラバラで統一感がない町並みになりそうで不安である。現状、様式、色、外壁など統一感がない。島民と廿日市市との解釈にずれがあると思う。宮島に専門家を常駐させてほしい。	宮島の重要伝統的建造物群保存地区内の建物改修は、「廿日市市宮島町伝統的建造物群保存地区保存活用計画」で示している基準に基づいて行っていますが、すべての改修に画一的に適用することは難しいのが現状です。 そのため、基準を実際の建物改修に反映させるための基準細則の策定に取り組んでおり、設計者や施工者等で構成される地元団体と調査研究を進めています。
10	－	宮島は世界遺産のまちなのに、海岸、道路がきたない。現状、側溝には食べ歩きの際の竹串、コップが捨ててある。特に、有之浦海岸は漂着ゴミと流木、堆積砂で見かねる状況。広島県と廿日市市の管轄があるように聞いているが、宮島訪問税を活用して掃除、整備をしていただきたい。観光客が多く、宮島がにぎわうことは良いことだが、町が汚いと観光客のマナーも悪くなる。気持ちの良い島にしてほしい。	宮島では、観光客の増加やマナー問題などに起因するごみのばい捨てや不分別、また、海岸の漂着ごみなどにより、自然環境や景観の保全などに影響が生じています。 この対応として、新たにスマートごみ箱の設置を行うとともに、ごみ箱の設置箇所の明示や分別の周知等などを行っています。また、海岸清掃イベント等を多様な主体と連携して継続的に行っており、これらの取組には宮島訪問税を活用しています。 今後も、世界遺産のある宮島を守り、誰もが快適に過ごせる観光地とするため、観光マナーの啓発やごみ対策に一層努めてまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
11	－	少子高齢化で身寄りのない高齢者や、1人暮らしの高齢者、認知症の高齢者が増加する中、「生前の入院や入所などの手続き支援」、「死亡後の手続き、葬儀や納骨、家財処分などの死後事務の支援」などが必要である。業者とのトラブルが起きているようで、市がやってくれば高齢者は安心して生活できる。横須賀市が実施しているので参考になる。	団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を迎え、今後は1人暮らしや認知症の高齢者がさらに増加すると見込まれることから、万が一に備えて、緊急時の連絡先や家族、支援者に伝えておきたいことを記録し、資産管理や葬儀などに関する希望を整理しておくことは重要であると考えています。 そのための取り組みとして、自分の考えや希望を家族などに伝えるツールである「マイエンディングノート」の普及啓発や、市内のNPO法人与自然と連携し、もしもの時に望む医療やケアについて家族や医療・介護関係者などと話し合いを共有する「人生会議（ACP）」の普及啓発に取り組んでいます。 また、終活を含めた高齢者の相談については、市内5か所に設置している「地域包括支援センター」や、山崎本社みんなのあいプラザ内に、市民からの多様な相談に対応する総合相談窓口として「相談まるごとサポートデスク」を設置し、対応しています。 さらに、「相談まるごとサポートデスク」に隣接して「成年後見利用促進センター」を設置し、認知症などにより判断能力が低下した方の日常生活の手续や金銭管理などに関する成年後見制度の利用相談を受け付けています。 今後もこれらの取り組みを継続しつつ、ご意見のあった内容については、市民の皆さまのニーズも確認のうえ、他市町の事例を参考に検討してまいります。

番号	項目	意見の概要	市の考え方
12	－	さくらバスを良く利用しているが、佐方ルートで17時台の便がほしい。	現在、佐方ルートは1車両で運行しており、1便の所要時間は約1時間です。 現行の16時台、18時台の便の間に1本増便することは、運転手の休憩時間などを考慮すると対応が難しい状況です。 1車両での運行では、すべての方の事情に対応することは困難なため、運行間隔をそろえることで、より多くの方にご利用いただけるようにしています。ご理解とご協力をお願いいたします。
13	－	老人クラブに興味があるが「老人」という言葉に抵抗感がある。「シニアクラブ」など名称を検討してほしい。	老人クラブは、仲間づくりを通じて高齢者の生きがいづくりや健康の維持、介護予防の増進を図るとともに、これまで培ってきた知識や経験を活かし、地域での社会参加を促進し、地域福祉の向上を目指して活動する、高齢者の自主的な組織です。おおむね60歳以上の方であれば加入できます。 名称については、基本的に各団体が決定するものであり、市が介入することは困難ですが、市内で活動している老人クラブの中には「シニアクラブ」に名称を変更しているところもあります。 このたびいただいたご意見については、廿日市市老人クラブ連合会にもお伝えいたします。